

振付・構成・ダンス

白井 剛

音楽構成・ピアノ

中川 賢一

映像演出

堀井 哲史

(ライゾマティクス)

愛知
芸文
フェス

音と光の脈が重なるとき、

そこにどんな響きが現れるか



2016.11.6 (Sun) 15:00開演 (14:15開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール (愛知芸術文化センター4F)

S席 5,000円 A席 3,000円 S席学生 (25歳以下、要学生証) 3,000円
車椅子席 3,000円 チャレンジシート 1,000円 (当日のみ)

主催：愛知県芸術劇場

ON-MYAKU 2016

— see / do / be tone —

2016.11.6 (Sun)

15:00開演 (14:15開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール
(愛知芸術文化センター 4F)



白井 剛 Tsuyoshi Shirai
振付家・ダンサー

96～00年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」に参加。98年、カンパニー「Study of Live works 発条ト(ばねと)」を設立。00年「パニョレ国際振付賞」、06年トヨタ コレオグラフィーアワード「次代を担う振付家賞」を受賞。06年カンパニー「AbsT」を設立。これまでに、06年「しはに - subsoil」、5人の音楽家との共同『THECO-ザコ』、09年「blue Lion」、10年「静物画 - still life-」など自身の振付出演作品を発表する傍ら、アルデッティ弦楽四重奏団とのコラボレーション作品「ジョン・ケージ『アパートメントハウス 1776』」やダムタイプの藤本隆行やメディアアートの真鍋大度ら10人のアーティストによる「true/本当のこと」など他ジャンルのアーティストとの共同製作作品にも多数参加している。
<http://shiraiabst.wix.com/>

終演後、アーティストによるアフタートークを行います。

●チケット 2016年8月4日(木) 10:00～発売

S席 5,000円 A席 3,000円

S席学生 (25歳以下、要学生証) 3,000円 車椅子席 3,000円
チャレンジシート 1,000円 (当日のみ)

※購入方法によりチケット代金のほかに手数料が必要になる場合があります。

※就学前のお子さまの入場はご遠慮ください。

※都合により出演者等、変更することがございますのでご了承ください。

※本公演では、演出のため、大型プロジェクターによる映像投影を行います。ごくまれに光が原因で体に異常を感じる体質の方がおられます。過去に光が原因で体に異常を感じた経験のある方は、ご考慮のうえご購入ください。

※車椅子席は劇場事務局(TEL 052-971-5609)にて取扱います。

※チャレンジシートは、公演当日10:00から愛知芸術文化センター内プレイガイド窓口にて販売(予約不可・購入枚数制限あり)。

●チケット取扱

●愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

<http://www.aac.pref.aichi.jp/dm/>

●愛知芸術文化センター内プレイガイド

052-972-0430 (平日10:00-19:00 月曜定休、祝日休の場合は翌平日)

●チケットぴあ (びあ店頭、セブンイレブン、サークルKサンクス)

0570-02-9999 [Pコード 452-781] <http://pia.jp/>

●託児サービスあり (要予約)

対象:満1才以上の未就学児 料金:1名につき1,000円(税込)

申込〆切:11月3日 託児申込み・問合せ:トットメイト

0120-01-6069 (9:00～17:00)

●愛知県芸術劇場メンバーズ

愛知県芸術劇場の主催公演チケットがオンラインで買える、愛知芸術劇場メンバーズが始まりました!

<http://www.aac.pref.aichi.jp/dm/>

音響: 石丸耕一(東京芸術劇場)
照明: 吉本有輝子(真昼)
舞台監督: 大久保歩(クワット)
衣装: るう(rocca works)
ハードウェア: 原田克彦(ライゾマティクス)
宣伝美術: 藤井かおり(ライゾマティクス)
制作協力: 一般社団法人ハイウッド
特別協力: 株式会社ライゾマティクス
協力・初演: 東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
2016年1月30日・31日
協力: アークベル株式会社
株式会社ヤマハミュージックジャパン
東京芸術劇場
広報写真提供: 東京文化会館 ©bozzo

主催: 愛知県芸術劇場

平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 文化庁

shugamatsuba arkbell.inc. YAMAHA MUSIC JAPAN CO. LTD.

お問合せ: 愛知県芸術劇場 TEL 052-971-5609 (10:00～18:00)
FAX 052-971-5541 〒461-8525 名古屋市中区東桜 1-13-2



地下鉄東山線または名鉄線「栄」駅下車徒歩5分

名鉄瀬戸線「栄町」駅下車徒歩5分

(オアシス21地下連絡通路または2F連絡橋経由)



中川 賢一 Ken'ichi Nakagawa
ピアニスト

桐朋学園大学音楽学部でピアノと指揮を学び、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科首席修了。97年ガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。ダンスや朗読など他分野とのコラボレーションも活発。ピアノ演奏とトークのアナリゼを展開し好評を博す。指揮者として、東京室内歌劇場、東京フィル、広響他と共演。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」メンバー。現在、お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。
<http://www.nakagawakenichi.jp>



堀井 哲史 Satoshi Horii

ビジュアルアーティスト・プログラマー(ライゾマティクス)

1978年生まれ。ビジュアルアーティスト/プログラマー。ライゾマティクス所属。東京造形大学デザイン学科、国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]DSPコース卒。既存のソフトウェアやツールに頼らない、コンピュータならではの動的な絵作りからプログラミングまで一貫して行い、インタラクティブ作品、映像制作を、エンターテインメント、アート等様々なフィールドで行っている。プログラミング/デザインを担当した「Perfume Global Site Project」は第16回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門大賞、カンヌ国際広告祭等多数受賞。2014年、elevenplayの「MOSAIC」では映像を担当。2014年度のD&AD年鑑に、脳波をビジュアルライズしたグラフィックを提供するなど形態にとられない制作活動している。
<http://satcy.net/>

イベント開催決定!

トーク: 堀井哲史(ライゾマティクス) ゲスト: 比嘉了、神田竜ほか

日時: 10月上旬頃予定

映像を手掛ける堀井哲史が取り組む、オーディオビジュアルの表現についてのトークイベント。もちろん、公演のみどころもご紹介。アート・映像に関心のある学生は必見!

※詳細は後日、愛知県芸術劇場ウェブサイトに公開いたします。

中川 賢一が魂で演奏する

ケージ、フェラーリ、ライヒたちに

白井剛がダンスで呼応、

その空間はライゾマ堀井哲史によって包括され

融合していく・・・

白井 剛

音の渦中に見えるもの。音の隙間によぎるもの。音の背後に立ちはだかるもの。音と光とカラダが共存・共鳴・共謀して、新しい音色がそこに視えたなら・・・。演奏家の体と頭と心、全身体で解読されてこの場所に解放される一つ一つの音。不思議な和音、複雑なリズム、独特な歯ごたえと後味。音の響きとリズムが時空に描きだす模様、質感、薫り、手触り。

中川 賢一

リハーサルをしていると、自分が弾きながら踊り、それはいつの間にか映像になって自分がどこにいるのかわからない時間になります。なにかわからなければどこかの凄いとこに連れていかれた・・・そんな時間を創ることができたら・・・とおもいます。今回は、これまで愛知でのレクチャーやコンサートで演奏してきたフェラーリ、メシアン、ケージの作品を存分に取り上げるといふ集大成です。思いっきりこの素敵な空間ではじけさせていたげたいと思います！どうぞ皆様お楽しみくださいませ！！

堀井 哲史

音楽のための映像を作る時、気を付けていることの一つとして、その映像が音楽に必要であると感じてもらえるかどうかです。その解決の方法として、映像と音楽・舞台で起こっていることを密接にリンクさせることを試みました。様々なセンサーデバイスを用いて、舞台上での出来事をデータとして常時取得。本作品の映像はすべて、これらのデータによってリアルタイムに生成されています。

●演奏曲目

モートン・フェルドマン

「バニータ・マーカスのために」(1985年)

武満 徹

「遮られない休息」(1952年)より

ジェルジー・リゲティ

「ピアノのための練習曲集」(1985～1993年)第1巻より

リュック・フェラーリ

「不気味に美しい」(1971年)

「小品コレクション、あるいは36の続き、ピアノとレコーダーのための」(1985年)より

「即興の練習 ～ピアノとステレオ・テープのための～」(1977年)より

ヤコブ TV

「The Body of your Dreams」(2002年)

ジョン・ケージ

「トイピアノのための組曲」(1948年)より

「Dream」(1948年)

オリヴィエ・メシアン

「鳥のカタログ」(1956～1958年)より

「鳥の小スケッチ」(1985年)より

ヤニス・クセナキス

「ヘルマ」(1960～1961年)

スティーブ・ライヒ

「ピアノ・フェイス」(1967年)

●使用デバイス

この舞台作品では、振付・ダンス、音楽、映像を相互に関連づけるため多数のデバイスが用いられる。

● 距離センサー

投射された赤外線反射率から距離や形を測定することで、ダンサーのフォルムや動きをデータとして取り込む。

● MIDI機能内蔵グランドピアノ (ヤマハ サイレントアンサンブルピアノ)

鍵盤の下にセンサーが仕込まれており、ピアニストの打鍵やペダルの動き、強弱などの演奏データを記録。ピアニストのリアルタイムの演奏データを解析する。

● 脳波センサー

頭部に装着し、脳波を測定する。8種類の脳波の成分を分析し、アテンション (attention 集中・緊張)、メディテーション (meditation 瞑想)などの精神状態や、ブリンク (blink まばたき)などのデータを測定。

● ARカメラ

ワイヤレスのビデオカメラとセンサーの連携により、立体的な3Dの空間情報を測定することで、映像内にヴァーチャルな空間を作り出す。

● アームバンド型センサー

筋電と加速度、傾き、ジャイロの4種のセンサーがひとつになった器具。ダンサーの手首、足首に装着する。ダンサーの筋肉から発せられる微弱な電気や、身体のスPEEDや傾きなどの運動をリアルタイムで測定し、映像グラフィックや音に反映する。

● LEDライト

スティック部分にLED(発光ダイオード)が仕込まれており、ピアノや電子音源が発する音や、打鍵の動き、ダンサーの動きなどに反応して、七色に輝く。

※演奏曲目および使用デバイスは、都合により変更となることがございます。